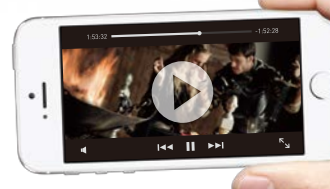


大容量の楽しさを、スマートフォンと持ち歩く

Wi-Fi接続 ポータブルハードディスク

開発スタッフへのインタビューを通して、商品開発にまつわるエピソードやアイデアの秘密をご紹介します『開発者の熱き想い』。今回はWi-Fi接続ポータブルハードディスクミニステーションエア「HDW-PDU3シリーズ」の開発担当田中翼に、開発に込めた想いを語ってもらいました。



スマホ・タブレットとWi-Fiでつなげる 好きな時に好きなだけ楽しむ

製品紹介

お気に入りの音楽、録画したテレビ番組、撮り溜めた写真などスマートフォンにはおさまらない大容量のデータを全部保存して、Wi-Fiを使ってスマートフォンで再生できるハードディスク。毎日の通勤時間やちょっとした移動時間が、大容量コンテンツを楽しむ時間に。

Wi-Fi接続ポータブルハードディスク

MiniStationTM HDW-PDU3 シリーズ

製品の詳しい情報はP25または製品Webページをご覧ください。
製品Webページは右のQRコードからアクセスできます。



ユーザーの声、実際の利用シーンを常に頭に浮かべ、 丁寧に開発を進めました。

—早速ですが、この製品の特徴について教えてください。

この製品は、Wi-Fiで接続できるハードディスクです。ハードディスクと言えばUSBケーブルでパソコンにつなぐことが多いですが、この製品はWi-Fiでつながるので、パソコンだけでなくスマートフォンにも接続できます。容量不足になりがちなスマートフォンにおさまらない動画も音楽も写真も、テレビの録画番組までも全部このハードディスクに入れて持ち歩いて、そのデータをスマートフォンで楽しめます。

モバイル回線などを介さず、スマートフォンと直接Wi-Fiでつながるので、新幹線や移動する車の中はもちろん、地下鉄乗車中でも接続が切れることなく、いつでもどこでも気軽に大容量コンテンツを再生できます。

—以前にも同様の製品はありましたが、録画番組への対応ははじめてのことですね？

はい。—昨年、この製品の元となる製品をリリース後、インターネット上の口コミやサポートセンター宛てに頂いたご意見を見ていると、録画番組を持ち歩きたいという声が多かったです。しかし著作権保護されている録画番組をハードディスクに移して再生するためには、「DTCIP-IP」という規格に対応しなければなりません。規格に対応するモノを作れば、各社のテレビやレコーダーの録画番組を移せるわけではなく、ひとつひとつの組み合わせで、入念な動作検証が必要でした。問題が見つかったら、すぐに解決するのですが、すぐにまた別の組み合わせで問題が発生するということの繰り返しで気の遠くなる作業でした。苦労のいかもあって、世界で初めて(※1) DTCIP-IPに対応したワイヤレスポータブルHDDを作ることができました。

—他にもユーザーの声を取り入れたポイントがありますか？

他にはバッテリーへの要望が多かったです。従来製品も4.5時間の動画再生ができますが、今回の製品では、動画再生時間12時間(※2)を実現しています。ハードディスクが電力を消費する一番の要因は、ドライブへのアクセスに反応して、ドライブが物理的に回転することです。本製品では、スマートフォン側に再生するデータを先に読み込むことで、アクセスの回数を最小限に抑えることに成功し、12時間という動画再生時間を実現しています。

—他にも工夫した点を教えてください。

この製品の利用シーンを考えると、スマートフォンと持ち運ぶことが多いと思います。持ち運びの際にネックとなるのが、「振動」です。ハードディスクは一般的に振動に弱いと言われており、当社のポータブルハードディスクにはあらゆる工夫がされていますが、この製品にも同様に振動への対策を施しています。具体的には、ドライブの側面にゴム足を取り付け、衝撃を吸収できるようにしています。またドライブは、筐体内で浮いた状態になっており、そこにできる空間が外部からの衝撃や他の部品の動作からの緩衝地帯となっています。

浮いた状態のドライブ



開発中には、私自身が振動計と試作品を持ち歩き、カバンに入れた状態で走ったり、自転車でも悪路を走行したりし、十分に振動に耐えられるという理想の形を追い求めました。

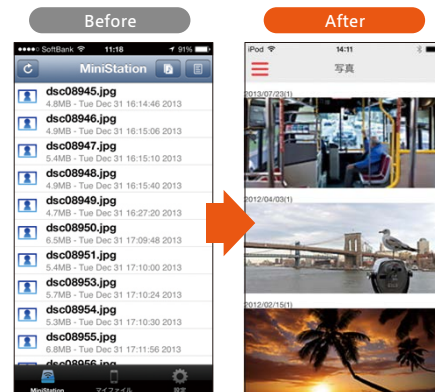
またハードディスクの中身を見るためのアプリの設計も筐体設計同様にこだわりました。ハードディスクにも関わらず、つながる機器の一番にパソコンではなくスマートフォンが来る製品です。ス



これまで手がけてきたのは、USBメモリーやHDDなどのストレージ製品。かつては、オートリターン機構付きUSBメモリーなどを開発。ウェブ上やサポートセンターに集まるユーザーの声に耳を傾け、ユーザーの欲するモノを考え、形にするという想いでモノづくりに取り組んでいる。

開発担当 田中 翼

スマートフォンは幅広い層のユーザーがいるので、今まで以上に誰もが使いやすい・わかりやすいアプリ設計が必要です。今回は、アプリを開いた時に、ファイル名の羅列ではなく、グラフィカルなサムネイルを並べるようにするなどし、直感的にファイルを選択できるユーザーインターフェースに仕上がりました。



—こだわりの塊ですね。世の中に浸透していくと良いですね。

たとえば、録り溜めた録画番組をこの製品に移して、通勤中の電車で消化していく、そんな新しいライフスタイルを生み出せたらと思っています。この製品が、スマートフォンの必需品と言われるようになれば幸せですね。

※1.DTCIP-IP機能搭載を謳うワイヤレスポータブルHDDとして(2014/5、当社調べ)
※2.パワーストモード、MiniStation Air 2アプリの動画の先読み機能が有効な場合、2時間の動画ファイルを6回再生可能。
※録画番組の再生には、パケットビデオ社製アプリTwonky Beam(有料)が必要です。